分科会	中学公民Ⅰ	群市名	岡崎
提案者	岡崎市立新香山中学校		高田　桃子

研究主題　「学ぶ喜びをわかち合い，共生社会をめざした生き方を問う社会科の授業」
～ 家族生活と人権『「子育てにやさしい理想の社会を考えよう！』 ～

1 研究のねらい

２１世紀を生き抜く生徒たちにとって，「現状をどう判断し，いかに将来を創造するか」「自と他の違いを理解し，お互いの人権を尊重しながら，よりよい共生社会を築こうとする」といった力が重要になってくる。そのため，多様な情報を取捨選択し，自主的に課題を追究し，自らの考えを持つこと。他の意見を認め，自分の考えを深めながら，お互いを尊重する生き方を創造する姿勢が重要であると考える。そこで，研究テーマである『学ぶ喜び』『わかち合い』『共生社会をめざした生き方を問う授業』を以下のように捉え，本研究を進めた。

- ◆ 学ぶ喜び … 新たな認識を持つことができたときに，学ぶ喜びを感じることができる。
- ◆ わかち合い… 学習を通して，同じテーマで考え，意見交換する中で，新たな価値観を見出し，お互いの考えを認めあうことができたときに，わかち合いを感じることができる。
- ◆ 共生社会をめざした生き方を問う授業 … 自分の生活を改めて振り返るなかで，人々が自らの考えを持つと共に，他の意見を認め，自分の考えを深めながら，お互いを尊重する生き方を意識するきっかけとなる授業。尚本単元では，「男女」の共生をテーマとした。それは「男」と「女」の違いを理解し，それを受け入れ認め，男女が不平等感を感じることなく生活できる社会と捉えた。

実践単元を，『家族と人権』とし，「育児」を核として単元を設定した。今日の社会の進展の中で家族生活のあり方も大きく変わり、少子化，核家族化が進んでいる。これに伴い，働く母親の家庭における家事や育児にかかわる問題など、家族のあり方をめぐってさまざまな問題が生じてきた。

現在３年生の公民授業では，新聞記事をもとに意見交換を行っている。「超少子化」というニュースの際，「野球チームが作れるくらい子どもがほしい。」という生徒も、深く考え出すと「やはり無理。これは理想だ。」と答えた。大人に憧れ自分の将来について前向きに考え始める中学3年生でも、子育てに対する不安はあるようだ。

また学級活動では，配布物を取りにいく仕事は男子が担当し、授業連絡を黒板に書く仕事は女子が担当しようと、男女が話し合いで決めていた。このように補い合いながら，男女がお互い協力し合う場面も見られた。

このような実態を持つ、これからの将来を担う中学3年生に、「子育てにやさしい理想の社会」を考察することを通して，男女の共生を意識させることは、大変意義深いと考え、本単元を設定した。

2 研究の内容と方法

本研究では，生徒に「他の意見を認め，自分の考えを深めながら，お互いを尊重する生き方を意識する」という力をつけるための手立てを明らかにしたい。そこで，以下のような仮説をたてた。

（1）研究の仮説

① 生の声を聞くことによって，今まで知らなかった他者の苦労や生き方を感じ，学ぶ喜びを味わえるだろう。
② 自分の考えを持たせ立場討論し，多様な立場で考えさせることにより，学びをわかち合い，自らの考えを再構築させることができるであろう。
③ 討論のなかで出てきた問題点を明確にし，理想の社会を考えさせることによって，男女の共生社会をめざした，自分なりの生き方を問い直すことができるであろう。

（2）手立て

① 女性消防士，吉岡亜矢子さんに，体験談や将来の不安について話してもらう場を設定した。
② 「男性が育児休暇を取ることに，賛成か反対か」という立場討論を設定し，それぞれの立場から発言させた。
③ 討論の中で出てきた子育ての問題点に対する改善策を考えさせ，子育てにやさしい理想の社会について考えさせた。

まずは，無意識のうちに持っている男女の固定的イメージや，性別的役割分担について自覚させるところから始める。しかし、今では職場や雇用機会では男女の差がなくなりつつある現状を知り、その理由を探り、社会の法律や制度について考える。このように、制度面では男女平等が整い始めたものの，実際の現場で働く女性消防士、吉岡亜矢子さんの体験談や将来の不安を聞き、社会で活躍する女性にとって、大きな壁である子育てについて意識させ，「私たちは、どのような社会に生きているのだろうか」という問いを中心に追究させ、将来の展望を持たせたい。

また，「男性が育児休暇をとることに，賛成か反対か」という立場討論を行う。根拠を持って自分の意見を発表することができるよう，調べ学習を行い，あらかじめ発言のもととなる資料を精選しておく。情報を取捨選択し、多面的に考察し、自らの考えを持たせ，発信させていきたい。

立場討論の中では，異なる意見を受け入れ、自らの考えを深めさせる。そして、男女が共に生活し，よりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいかという，自分なりの価値判断に基づいた見方・考え方の育成を目指したいと考える。

最終的に、立場討論を通して浮き上がってきた「子育て」に関する問題点を明確にし、調べ学習を行い，改善策を考察する。「現代社会の特色に気付かせる」という公民的分野の目標は、情報化、少子高齢化、国際化など現代社会の特色に気付かせることを意味している。家族や地域社会などの機能について取り上げ、個人が家族の一員として、また地域社会の一員として、他の人々とともに生活を営んでいるということを自覚させ、個人が社会とどのようにかかわりながら生活しているのか具体的に考えさせることを通して、個人と社会とのかかわりについての見方や考え方の基礎を養っていきたい。

現在の家族についての基本的な考え方である、「個人の尊厳と両性の本質的平等」という日本国憲法の理念や、これに基づく男女共同参画社会基本法、男女雇用機会均等法とのかかわりを持たせながら、生徒一人ひとりに、家族の意義や役割、これからの望ましい子育て環境のあり方について考えさせたい。　（単元計画）

学習課題	学習内容	時間	備考
1 自分の中のイメージをチェックしよう	○男女に対するイメージのほりおこし		・自分が持っている男女の固定的なイメージに気づかせる。
○男女のイメージチェック	（　）に当てはまる言葉を入れてみよう。 ・（ ）はよく泣く ・青や緑の服は（ ）に向いている ・（ ）はよくけんかする ・赤やピンクの服は（ ）に向いている ・（ ）は音楽が得意である ・（ ）は運動が得意である ・生徒会長は（ ）に向いている ・清掃や整理整頓は（ ）に向いている		
○職業に対するイメージチェック	○職業の分類と、職業に対する固定的イメージ ・男の仕事（　　）女の仕事（　　）	1／8	・職業に男女の区別があるという固定的イメージに気づかせる。
会社員／消防士／警察官／自衛隊／公務員／医者／看護婦・士／漁業／アナウンサー／評論家／新聞記者／学校の先生／幼稚園の先生／保育園の先生／大学教授　／校長先生／市長／議員／研究員／バスの運転手／料理人／美容師／客室乗務員／車の整備士／プロスポーツ選手／宇宙飛行士／パイロット／芸能人／音楽家／ホームヘルパー／会社の経営者／弁護士・裁判官／コンピューターエンジニア／農業／建設関係技術者			
2 職業と男女の区別について考えよう	○男性幼稚園教諭と女性消防士に対して自分の考えを持つ ・イメージ　・考え ○職業の壁がなくなってきた背景 ・法律の整備　・時代の流れ　・男女平等 ○法律や制度 ・男女雇用機会均等法（改正）	2／8	・写真 ・男性幼稚園教諭と女性消防士の写真を見て、職業にも男女の差がなくなりつつあることに気づかせ、自分の考えを持たせる。 ・職場における男女雇用機会均等法や、男女共同参画社会についての説明を、

	・男女共同参画社会 （市役所の方のビデオ）		行政の立場から話してもらったビデオで学習させ、共通理解をはかる。
3 働く女性に、実際の職場環境について聞いてみよう	○女性消防士に対するインタビュー ・消防士をめざしたきっかけ ・女性消防士の長所 ・働くことの苦労 ・男性との差を感じると ・親の意見 ・将来の夫に望むこと（男育休賛成派） ・周囲の目 ・将来の不安（結婚・出産・育児）	3／8	・女性消防士，吉岡さんの苦労、男性との差を感じる時、将来に対しての不安などを真剣に聞かせる。 ・社会で活躍している女性とって，将来の不安（結婚・出産・育児）があることに気づかせる。
4 育児休暇の現状を知ろう	○男，女どちらが育児をするのが理想か。 理由 ○育児休暇に対する理解 内容／取得率	4／8	・前時の，働く女性が持つ将来の不安をふまえて，育児について考えさせる。育児休暇の共通認識を持たせる。
5 男性が育児休暇を取ることについて考えよう （調べ学習）	○ 男性育児休暇と女性育児休暇を取るプラス面、マイナス面 ・男性が取得することの利点と問題点 ・女性が取得することの利点と問題点 ○調べをもとにして、考えを持つ	5／8	・インターネット・資料集、新聞記事などを利用し、テーマについての下準備をさせる。 ・根拠を持って発言できるように、発言の基となる資料を集めさせる。
6 男性が長期育児休暇を取ることに賛成か反対か ○ 立場討論 （賛成派 ／ 反対派）	○男性が長期育児休暇を取ることに対する討論 ○子育ての問題点。	**6／8** **本時**	・根拠を持って自分の立場を認識させ、発表させる。 ・様々な意見を受け入れ認め,その上で自らの考えを深めさせる。 ・子育ての問題点を浮き彫りにさせる。
7 討論から出てきた、子育ての問題点を調べよう	○子育ての問題点 ・ 経済的問題 ・ 職場環境 ・ 男女の問題 ・ 女性の社会進出 ・ 児童虐待 ・ 制度・法律の不備 ・ 少子化問題 など	7／8	・前時の討論から出てきた、子育ての問題点を調査させる。 ・統計・聞き取り、インターネットなど調査方法を決めて調査させる。 ・人々の意識や心情面も調査させる。
8 『子育てにやさしい理想の社会』を考えよう	○子育ての面から見た、理想の社会 ・男性の意識 ・女性の意識 ・制度面 ・経済的な面 ・職場環境	8／8	・調査した子育ての問題点に対する、解決策を考えさせる。 ・少子化問題をふまえて、自分なりの「子育てにやさしい理想の社会」をまとめさせる。

3 研究の実際

第1時 自分の中のイメージをチェックしよう。

（ ）に当てはまる言葉を入れてみよう。
1，（ ）はよく泣く
2，青や緑の服は（ ）に向いている
3，（ ）はよくけんかする
4，赤やピンクの服は（ ）に向いている
5，（ ）は音楽が得意である
6，（ ）は運動が得意である
7，生徒会長は（ ）に向いている
8，清掃や整理整頓は（ ）に向いている

導入段階で，固定的イメージをチェックするため，右の表の（ ）にあてはまる言葉を入れさせた。男女に絞らなかったため，1では（赤ちゃん）（女性）（芸能人）（子ども）など，解答が幅広くなってしまったが，その中にも，「男女」という言葉が入っていた。どちらかといえば「男」「女」というように，何となくイメージを持っているがそれが固定的とは言い切れなかった。

・男性の職業，女性の職業だと思うものを三つずつ選ぼう！
会社員／消防士／警察官／自衛隊／公務員／医者／看護婦・士／漁業／アナウンサー／評論家／新聞記者／学校の先生／幼稚園の先生／保育園の先生／大学教授 ／校長先生／市長／議員／研究員／バスの運転手／料理人／美容師／客室乗務員／車の整備士／プロスポーツ選手／宇宙飛行士／パイロット／芸能人／音楽家／ホームヘルパー／会社の経営者／弁護士・裁判官／コンピューターエンジニア／農業／建設関係技術者

次に，右の表の中から，男性の仕事，女性の仕事だと思うものを，三つずつ選ばせた。男性の仕事は，「消防士・自衛隊・パイロット」，女性の仕事は「保育園の先生・幼稚園の先生・アナウンサー」をほとんどの生徒が選んだ。

選んだ理由としては，A 男に代表されるように，男性は力を使う肉体労働，女性は人と接する仕事という意見が多く，男女に対する固定的イメージをもっていることがわかった。

＜A 男の意見＞ やはり，男の職業は力を使ったりする肉体労働系のものが多い。それに対して，女性の仕事は，ほとんど力を使わない，精神的な労働系（世話をするなど）が多い。やはり，男性より，基本的に丁寧だからだと思う。また，幼児の先生系が多いのは，やはり男性と比べて女性は丁寧でやさしいイメージがあるからだろう。極めないとちゃんとできない仕事は，やはり子育てをしなくてよい男に多いような気がする。

第2時 職業と男女の区別について考えよう。

前時に，自分の中の職業に対する固定的イメージに生徒は何となく気がついた。そこで現実社会では，男性

の仕事と考えられていた職業に女性が，女性の仕事と考えられていた職業に男性が就くようになりつつあるという時代の流れを感じさせるため，導入に男性幼稚園教諭と女性消防士の写真を用いた。

「この男性の職業は何でしょう。」と問うと，「強そうだから，消防士」「筋肉があるから，体育の先生」と見た目で判断する生徒が多かった。「実はこんな職業に就いているのです」と幼稚園児と撮った写真を見せると，「意外!!」「驚いた。」「でも優しそうに見えるから少し分かる気がする」といった反応だった。

同じように，「この女性の職業は何でしょう。」と問うと，「おしゃれそうだから，美容師さん」「やさしそうだから介護士さん」と，こちらも見た目で判断する生徒が多かった。そこで，消防のホースを持っている写真を見せると，「かっこいい!!」「すごい!!」「女性なのに？」という反応で，消防士＝男性という固定的イメージをもっていることがはっきりと証明された。

板書の様子

そこで，それぞれのメリットを考えさせた。男性幼稚園教諭では，「力仕事をやってくれる」「園児のお母さんが喜ぶ」「たくましい子が育つ」「男性が子育てをするよいイメージがつく」「男女の固定イメージが崩れてよい」という意見が出された。女性消防士では，「女性の患者さんは嬉しいと思う。」「女性の方が小柄なので，狭いところにも入っていける。」「女性の声の方が癒されるかもしれない」という意見が出された。

続いて，職業の壁がなくなってきた理由を考えさせると，「女性が社会進出するようになった」「今は，男女が助け合う時代になった」「男＝仕事，女＝家事という意識がうすれてきた」「男尊女卑の考えがうすれてきた」「やりたい仕事につけるようになった」「女性の権利を求める運動が盛んになってきた」「結婚しても仕事をやめない女性が増えた」という言葉が返ってきた。その考えを確かなものにするために，世の中が男女平等参画社会をめざしているという，市役所の方の声をビデオで見せた。今までの固定的イメージを乗り越え，職業の壁がなくなりつつあり，男女平等参画社会をめざしているということを意識させることができた。

＜A 男の感想＞

今日の授業をやって思ったことは，やはり男女が平等になってきているということ。昔は男の方が力が強くて，女はその下っていう風だったけど，それをなくそうとしている。消防士なんて，すごく男らしい仕事だと思っていたのに，女の人がやるとは驚きました。でもやはり昔からの伝統が今いろいろな面で崩れてきていると思います。昔は町火消しとかは男しかいなかったと思うので，伝統が壊れてきていると思いました。このような昔からの男女差別がなくなってきているのは良いことだと思うけど，メリットがあるなら，デメリットもあるので，それは何かなと思いました。

第3時　働く女性に，実際の職場環境について聞いてみよう。

前時までに，社会では男女の職業に対する固定的イメージがなくなりつつあり，制度面では男女平等が整い始めたことを理解した。A 男の感想にも「昔からの男女差別がなくなってきているのは良いことだが，デメリットは何か」とあるように，実際の現場で働く女性にとって，子育ては大きな壁であるということに気づかせるため，女性消防士、吉岡亜矢子さんをゲストにお招きし，体験談や将来の不安を聞く場面を設定した。①消防士をめざしたきっかけ②女性消防士として働く長所③女性消防士として働く苦労④男性隊員との差を感じる時⑤親の意見や立場⑥周囲の目⑦将来の不安という質問をあらかじめ用意し，答

女性消防士，吉岡さんを招いて話を聞く様子

えてもらった。特に，将来の不安を強調するようにお願いした。「結婚し、子供ができたら仕事をどうするか、将来のことを考えると，結婚，出産，育児の壁をどう乗り越えていけばいいかという不安があります。」という第一線で働く女性にも大きな壁（子育て）があるということに気づかせ，それをどう解決していくかを考えさせることにした。

＜A 男の感想＞
貴重な話を聞けてよかったです。まずはやはり女性は男性と比べて体力がないということを思いました。だからその分不利な点がたくさんあるのだと思います。また，女性消防士は定着していないから，変な目で見られてしまうけど，そういうこともなくなると思います。女性であることの利点は，やはり予想した通りでした。女性ならではの将来の不安（子育て）もあるので，そういうものも解決していくと良いなあと思いました。

第4時　育児休暇の現状を知ろう　　第5時　男性が育児休暇をとることについて考えよう。

前時の A 男の感想に「女性ならではの将来の不安（子育て）もあるので，それも解決していくと良いと思った」とあるように，社会の第一線で働く女性にとって，大きな壁である子育ての問題について考えさせるため，まずは「男性・女性どちらが育児をするのが理想か」と生徒に投げかけた。すると，「女性」という答えが返ってきた。そこで，前時の女性消防士吉岡さんの話を振り返らせると，「2人でやったほうがいい」という意見が出てきた。その時，「仕事はどうするのか」「お金は誰が稼ぐのか。2人とも育児をしたら，食べていけない」という意見が出てきた。

＜A 男の意見＞
男性が育児休暇を取るプラス面
男の人が育児をすると，育児の大変さがよく分かる。育児は女性がやるという固定観念があるから，そういう男女差別ということもなくなる。
男性が育児休暇を取るマイナス面
男は基本的に女より体力があるので，仕事に向いている。男の方が給料も高いので，男が休むと家庭の収入が減ってしまう。
女性が育児休暇を取るプラス面
育児をすることに本能的に慣れている。授乳もできるので良い。また，赤ちゃんにも，より温かく接することができる。
女性が育児休暇を取るマイナス面
女性の社会進出の妨げになってしまう。

そこで，育児休暇について，「男女問わず，子どもを養育するために休業することができ，その後復帰できる。給料は30％給付される」という制度面の説明をした。その育児休暇を現実に取得しているのは，男性0・56％／女性70．6％であるという具体的な数字をあげた。この数字の差について考えさせるため，男性と女性の育児休暇についてのプラス面とマイナス面を調べることにした。

調べているうちに，「男性の取得率が低いのは，取りにくいのではないか。ならば，吉岡さんのように一生懸命仕事をしている女性が子どもを産んで，子育てをするために，仕事を休まなくてはいけなくなる。何かよい策はないものか」という声があがった。

そこで，女性が働きやすくなるという面を考え，「男性が育児休暇を取ることに賛成か反対か」という討論を設定した。調べ学習を行い，多くの資料を取捨選択しながら，自分の立場を明確にさせ，根拠を持って自分の考えを持たせるようにした。

第6時　男性が育児休暇をとることに，賛成か，反対か。

前時までに調べたことをもとに，自分の立場をはっきりさせた。完全に賛成，反対ということは難しく，どちらからというと賛成，反対という立場になり，討論前には，29人中，賛成13人／反対16人に分かれた。

自分の立場をもとに，『男性が育児休暇を取ることに賛成か反対か』という討論を行った。討論では，自分たちが調べてきたことを基にして，自信を持って発言する生徒が多く見られた。賛成派は，「男女平等」「男性も育児の大変さを知った方が良い」「働く女性を助けるべき」といった論拠で，

反対派は「経済的に男性が働く方が家計のため」「女性には母乳がある」「自然の摂理」といった論拠で進んでいった。

討論の中では，自分の立場に固執することなく，意見が変わる生徒や，反対側の立場の意見を受け入れて認める発言が多かった。討論の内容はあちこちに飛んでしまったが，討論の中には多くの子育てに対する社会の問題点が浮かび上がっていた。（以下授業記録の抜粋）

＜A 男の意見＞

私は，男性が育児休暇を取ることに，反対です。自然の摂理でそうなっているからです。男は夫婦が社会的地位を獲得するための身体になっていて，女はそれをサポートするよう，つまり子育てや家事などがしやすいようになっているから，男性が育児休暇を取ることには反対です。身体もそうなっているし，昔からの伝統を壊すほど，男性が育児休暇をとる意味がないとおもうからです。また，男性も女性も父親の給料が高いから，男性が育児休暇を取らないという理由があるので，女性が育休をとった方が，効率も良いから，この意見には反対です。

S1	反対	これからは,もっとたくさんの育児休暇をとらせてあげ,保育施設を充実させる方がいいと思う。
S2	賛成	育児は夫と妻の二人三脚。反対の人の意見を聞いて，男性と女性交互で育休をとったらどうかと思った。
S3	反対	S2 の意見に対して，交互にとると，会社も大きな仕事を任せられないから，女性でも男性でも給料が上がらず，家計にも厳しくなると思う。
S1	反対	何回もとったりすると，会社で，よけい居心地が悪くなると思う。
S4	反対	夢を追いかけている途中で何回も休憩すると，よけい夢が追えなくなると思う。S2 の言ったとおり，現状では，男性の方が育児に参加していないことが多いから，,二人三脚はいいと思う。でも,夫婦にもいろいろあるだろうし，それは，お互いが話し合って決めていけばいいと思う。
S5	賛成	育休の給付金が少ないことも問題だと思う。スウェーデンではたくさんもらえる。日本も見習って増やしたほうが良いと思う。
S2	賛成	さっき言った交代で育休をとるというのは，あくまで夫婦で相談してやっていくという意味なので，大丈夫ではないかと思う。
S4	反対	男性が育休をとる方がいいとは限らないから，日本はどうするべきかと思う。でもやっぱり,男性の方が強いというのはあると思う。土地の権利でも，名前を書くのは男だし，男尊女卑かもしれないけど，最終的な決定権は男性にあると思う。昔からの名残だから。
S6	賛成	S4 みたいな,そういう固定観念があるから，新しい社会がつくれないと思う。まずはその固定観念を捨てたほうが良い。
S2	賛成	女性消防士の吉岡さんのように努力して，今でもがんばっているから，そういう人たちのために，男性もサポートすべきではないかと思う。
S7	賛成	S4 みたいな人が多いから，女性は子どもを産みたがらなくて，少子化になってしまうと思う。女性は産休を取らなければいけないので，その分はやく仕事に復帰したいと思う。だから男性が取るべきだと思う。
S4	反対	男性のほうが体力があるので，女性より男性のほうが働ける。だから男性の給料が高くても仕方ないと思う。S6 の言うように，固定観念を捨て，男性が育休をとることで，どんな幸せな社会が待っているのか，教えてほしい。
S6	賛成	わからないけど,やっぱり世の中が男女平等になろうとしているし，吉岡さんみたいな，女性を助けるためにも，男性が育休をとる時代に変えていったほうがいいと思う。女性が社会に進出していけば，新しい視点で仕事をして，社会にとってもいいことがあるかもしれない。
S3	反対	賛成の人は，夢を追いたい人が多いのではないかと思う。だから自分の夢を理解してくれる人と結婚すればいいと思う。
S4	反対	今の世の中でも，女性で消防士になれるということが証明されて，昔より男女平等が進んでいる。やりたいことはやれるから，あとは夫婦間の愛情だと思う。偏見かもしれないけど女の愛情は優しいような気がする。だから女性が育児したほうが良い。おしつけではいけないと思うけど。

授業記録の S2，S6 の発言にもあるように「女性消防士，吉岡さんのように」「吉岡さんみたいな女性を助けるためにも」と， 生の声を聞かせたことにより，女性消防士の吉岡さんが，生徒の中に強く印象付けられた。男女共同参画社会を考えるにあたり，貴重な存在となり，手立て①が有効であったことがわかる。

また，s4は A 男であるが，討論中「昔より男女平等が進んでいる，やりたいことはやれるから，あとは夫婦間の愛情。おしつけではいけないけど」と，少しずつ男女の共生を意識する発言が見られた。

＜討論後の感想＞

〇やはり，こういうことは直接の当事者ではないと話せないから，難しい。実際自分が将来どうなっているかわからないから，賛否両論になったと思います。利点があればマイナスな点もたくさんあるから，やっぱり難しいと思いました。（A 男）

〇まだ固定観念がしみついていて，給料が高いなどの考えがあって，女性が社会に進出していけないと思う。女性だって，夢があって仕事がしたい人が多いのだから，これからは女性が社会進出できるように企業側が女性を受け入れてあげないといけない。女性が進出していけば，給料の割合だって，変わると思う。やはり子育ては男女平等な義務で，自分の愛する子供はきっと大事に育てられると思うし，男性にも子供を育てる楽しさなどを知ってもらい，子供が大きくなっても母親だけではなく，父親とも相談し合える仲になれば良いと思う。（B 子）

〇反対派の意見を聞くと納得する所もあり，とても難しい問題だと思いました。確かに，男性が育児休暇を取ることには，たくさんの問題がありますが，女性の「夢」というものも理解してあげるべきだと思います。僕たちだけの話し合いで解決するのは難しいと思います。

やはり，男性も育児休暇を取っても良いが，やっぱり女性のほうが向いているのではと思いました。ただ，吉岡さんのように，とても仕事に熱心な人は，相手の男性が理解し，育児休暇をとってもいい，ということで賛成にしました。つまり，家庭によって違うと思います。将来自分がこの立場となったとき，相手がとてもやりたいというなら，自分が子育てをするなど、相手とじっくり相談したいと思います。すごく参考になりました。相手には思いやりを持って接したいと思いました！！（C 男）

〇このようなことはしっかり夫婦で話し合って決めることだと思う。感じたことは，よく「偏見」とか「固定観念」という言葉が出ていたけど，いつまでも固定しているのではなく，せっかく変わろうとしているのだから，男性が積極的にとるべきだと思う。ちなみに自分は将来育休を取りたいです。なぜなら，これもある日記に書いてあって，子供の成長を間近で見ることができるからです。（D 男）

討論後の C 男の感想にあるように「反対派の意見を聞くと納得する所もあり」と，討論によって学びをわかち合い，考えを再構築する姿が見られ，手立て②が有効であったことがわかる。

第7時　討論から出てきた子育ての問題点を調べよう。第8時　子育てにやさしい理想の社会を考えよう。

前時の討論をふまえて，「子育ての問題点」をあげさせた。「経済的にお金がかかる」「保育施設が少ない」「育休がとりづらい」「社会が子育てに冷たい」「地域の協力が足りない」「労働時間が長く子どもと向き合えない」「家庭内の協力が足りない」「子どもとコミュニケーションがとれない」などの問題点があがった。

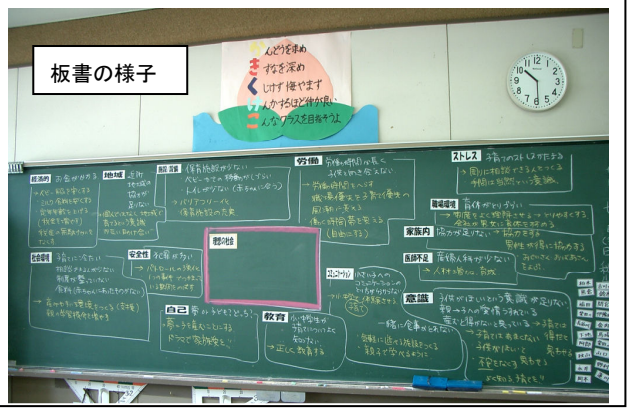
その問題点を改善する策を考えさせ，最終的に「子育てにやさしい理想の社会」を考えることにした。

改善策としては，「他国のように給付金を増やす」「保育施設を増やす」「労働時間を減らし，仕事よりも子育てという風潮をつくる」「地域で子育てをしていく」「家族内でも協力して子育てをする」「なるべく多くの時間，子どもと一緒にいられるようにする」「親の相談機関をつくる」「犯罪がないようにパトロールする」「子育てを夢にする」などがあげられた。

自分があげた問題点ではなくても，それぞれ改善策を考えている姿が印象的であった。現実的に考えながらも，このような社会になってほしいという願いが込められていた。

＜A男の意見＞
経済的な問題：　日本は給付金が少ない。アメリカは保育サービスの費用が低いので出生率が高く，スウェーデンは給付金の水準をあげることによって出生率が増えたので，どの国の人もお金がもっとほしいと思う。だから日本も、もっと給付金の水準を上げるとよい。
施設の問題　：　保育施設が足りないところが多々あると思うので，もっと充実させる。
労働問題　：　日本は他国の人と比べて，たくさんの仕事をするし，その分責任も感じてしまうので，なかなか育休が取れないと思う。だから，もう少し，自由に働けるようにするべきだと思う。
意識問題　：　子供を産むとお金がなくなるし，楽できないなど，あまり子どもを産むことに対してよい意識がない。子供を産んだほうがよいという意識を植え付けるといい。
医師問題　：　産婦人科医が不足していて，多忙である。すぐ近くに良質な医師がたくさんいたほうがいい。
夢を追う問題　：　今は一度仕事を休んでしまうと，なかなかすぐに元通りにはできない。男女共に子どもを産んでも夢を追えるようにするべきだと思う。

＜A 男の考える，子育てにやさしい理想の社会＞
男女共に，子どもを産んでも夢をそのまま追えるようにするべきだと思う。次に，会社側に対して，働くことの責任を子育ての時期には強く持たなくなるような社会。また，上質な産婦人科医が近くにたくさんいて，保育施設等も安価で充実している社会。今は男性がほとんど子どもとかかわっていないので，男性がもっとかかわる社会。会社に気兼ねなく育休がとれる。そして，何よりも子育てに対する給付金の額やもらえる対象が多い社会が理想だと思う。



＜単元を通して，A 男の感想＞
どちらが家族を養うにしろ，あまり金銭的に困らず，育休に対しても夫婦でしっかり話し合っていきたい。子どもを含めて家族全員が仲良く，働く人も，もっともっと子どもにかかわって，子どもの安全を第一に考えて，それにはどんな苦労もいとわない家庭を築きたい。
今までの授業を通して，子育てにやさしい理想の社会像がより見えてきたような気がした。また，女性の社会進出，つまり男女平等ということも急速に広まってきていることが分かった。
また，他人は自分とは違う意見をたくさん持っていたので，様々な考えがあると思った。そんなところから，子供ができたらよく夫婦で理想の子育てというものを考えていきたいと思った。
最後に，様々な討論を通して，たくさんの人の考え方というものがあるということを改めて感じたので，これからは，より相手（人）のことを考えていきたいと思った。

単元を通しての A 男の感想にも「子供ができたらよく夫婦で理想の子育てというものを考えていきたい」とあるように，男女の共生社会をめざした自分なりの生き方を問い直す言葉が見られ，手立て③が有効であったことがわかる。

4 研究の成果と課題

① 女性消防士の吉岡亜矢子さんの生の声を聞く機会を設定したことによって，働く女性の現状を知り，今の世の中について積極的に考えようとすることができた。
② 「男性が育児休暇を取ることに賛成か反対か」の討論では，調べた資料に基づいて，自分の言葉で発言する生徒が増え，自分とは反対の立場の意見も認めあう姿が見られるようになった。
③ 討論を踏まえて子育ての問題点をあげ，一人調べをさせ，改善策を考えさせることで，調査内容が焦点化され，より興味深く自主的に調査し，考えることができ，夫婦間の協力や子育てにやさしい理想の社会像を考えることができた。

「男性が育児休暇を取ることに，賛成か反対か」という討論の内容では，賛成派が「理想派」、反対派が「現実派」というように、「理想的にはそうだけど、現実は…」「制度面では賛成だが，自分は…」といった悩みが多くの生徒に見られた。そう考えると、「理想的にはこうだ」とわかっていることを「賛成」「反対」に分けて話し合わせることに妥当性があるかどうかは、やや疑問が残る。

しかし、討論では，自分の立場に固執することなく，相手の立場の発言を認めながらも、自分の言葉で意見を述べることができた。討論の中で，自分の考えが変わったり，「相手を尊重しながら考えていかなくてはいけない」という，お互いを尊重する共生社会を想い描いたりする生徒が増えていた。

討論や感想の中に，何度も「女性消防士，吉岡さん」が登場していた，ここからもわかるように,生の声を聞かせたことにより，学ぶ喜びを感じ，女性消防士の吉岡さんが生徒のなかに強く印象付けられていた。そして，男女の共生社会を考えるにあたり，貴重な存在となっているので，手立て①が有効であったことがわかる。

討論後の感想にも「反対派の意見を聞くと納得する所もあり，僕たちだけの話し合いで解決するのは難しいと思った」「様々な討論を通して，たくさんの考え方というものがあるということを改めて感じたので，これからはより相手（人）のことを考えていきたいと思った」とあるように，討論によって学びをわかち合い，考えを再構築する姿が見られ，手立て②が有効であったことがわかる。

A男は最初「極めないとちゃんとできない仕事は，やはり子育てをしなくてよい男性に多い」と言う固定的イメージがあったが，単元を通しての感想には，「夫婦でしっかり話し合っていろいろなことを決めていきたい」「働く人も，もっともっと子どもにかかわって，どんな苦労もいとわない家庭を築きたい」というように,考えに変容が見られた。周りのことを考えて行動することがあまりなかったA男からも、男女の共生社会をめざした自分なりの生き方を問い直す言葉が見られ，手立て③が有効であったことがわかる。

立場討論は，調べた根拠に基づいて，自信を持って発言することが求められるし，周囲の意見を聞いて，その場でまた新たな考えを持ち、発言する場なので，はじめに内容をしっかりと把握しておかなければならない。また，自分の考え方を理解しておく必要がある。そういったあらゆる情報を取捨選択しながら，自分の考えを構築し、主張する力は，将来を切り拓く生徒にとって重要な力だと思う。

調べ学習や立場討論は，時間的に制限があり，なかなか実践に移すことは難しい。しかし，今回の実践は、“お互いを尊重する生き方を意識する”きっかけとなる授業になったと思う。生徒の今後の生活そして将来にも、この意識が生かされ、よりよい共生社会をめざし,将来を創造することができると思うので、今後も新しい実践に挑戦していきたい。